



ゼロータ+ハーセプチンの治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

お薬の名前	1日目	2～21日目
ハーセプチン (トラスツズマブ) mg	 初回は90分、 2回目以降は30分	お休み
ゼロータ (カペシタピン) 1日 mg	2週間  朝食後 個 夕食後 個	1週間 お休み

◎飲み忘れた場合には、忘れた分を服用せず、次の分から服用してください。

絶対に2回分を一度に飲まないで下さい。

この薬の副作用が強く現れるおそれがあります。

★**起こりやすい副作用** これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

〈血液検査からわかる副作用〉

肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあります。そのため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。

⇒お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。服用中の方は、主治医に申し出て下さい。

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後から通常よりも少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！ 白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。



〈ご自身でわかる副作用〉

インフュージョン・リアクション

投与中から投与後、アレルギーに似た症状が出る場合があります。『寒気』『気分が悪い』『顔や体がかゆい』『息苦しい』『頭痛』などの症状がおこった時は、すぐにスタッフを呼んで下さい。⇒解熱剤を服用することがあります。2回目以降はほとんどの方で症状が軽くなるので、その後も継続して投与が可能です。

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療時期に合った吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

下痢

1日3回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、下痢止めを服用して下さい。下痢止めを2回服用しても、よくなる場合は、病院への連絡が必要です。

⇒脱水を防ぐために、下痢または軟便の時は、水分をしっかりと取りましょう。

手足症候群

手のひらや足の裏が赤くはれたり、ヒリヒリ・チクチクすることがあります。症状が強くなると、皮膚のひび割れや水ぶくれなど日常生活に支障をきたすおそれがあります。休薬が必要な場合もあるので、痛みが強い場合には、連絡して下さい。

⇒こまめに保湿剤を使って皮膚が乾燥しないように心がけましょう。

色素沈着

抗がん剤の影響で顔や手や足（特に指先や関節）、つめが黒くなる場合があります。

口内炎

治療開始1週間ほどで口の中や歯肉がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出ることもあり、うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがあります。痛くて食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

倦怠感（身体のだるさ）

★すぐに連絡をいただきたい副作用



- ★「動くと息が苦しい」、「疲れやすい」、「足がむくむ」、「急に体重が増えた」（心障害）
- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）
- ★「倦怠感（だるさ）」、「食欲不振」、「発熱」、「黄疸（目の白い部分や顔や手が黄色くなる）」、「発疹」、「吐き気・嘔吐」、「かゆみ」（肝機能障害）

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。